

研修委員長 市村清勝

最高のものを作ろう

これは妥協しない心。これでは駄目だという心です。

6月のモーニング
セミナー予定

●6月6日(土) 第265回
『感謝の心と向上心』
講師:秋田県由利本荘倫理法人会
監査
佐藤良一様

●6月13日(土) 第266回
『職場のメンタルヘルス入門』
講師:東谷メンタルヘルス研究所所長
精神科医
東谷慶昭様

●6月20日(土) 第267回
講師:呑百笑燦塾
主宰
井上太様

●6月27日(土) 第268回
『シンプル イズ ベスト
心が先』
講師:(社)倫理研究所
法人スーパーバイザー
磯田サヨ様

皆様のご来場を
お待ちしております
おります。

心掛ければ
自然に出て
きます。

◎積極的な人にはツキがある。

MSで積極心が磨かれる3カ条

- 一、席は前から座りましょう。
- 一、背筋を伸ばしましょう。
- 一、輪読で「どうぞー」は要りません。

(社)倫理研究所 井上茂勝様ご講話より。



市村工務店の市村です。研修委員長を拝命しております。研修委員会はモーニングセミナーの講師を依頼し、お招きするのが役目です。私は自分が「この人の話を聞きたい!」と思った方を講師に選んでいます。これは人に差し上げるプレゼントと一緒に思っています。私が誰かにプレゼントをする時は、これは相手が喜んでくれそうだなということではなくて、自分が「欲しいなあ。」と思うものを選ぶようにしています。講師の選定は、「これ、おいしいから是非食べて!」というのと同じ感覚です。

●倫理は実践と継続

倫理の実践を通して、どれだけ成長をしているか、自分では気づいていない事が多いものです。それは人の話を聞いたり実践したりしながら、少しずつ成長していくからなのかもしれません。人は急には成長できませんので、私はそれで良いのだと思います。少しずつ良いのですから、倫理の実践において、無理をする事はありません。頑張ることもしません。しかし、さぼりもせず、今やれる事をやれる範囲で一所懸命する。これが倫理を継続するための自分のポリシーになっています。

●現場のトイレ掃除

当社のネームプレートには『日本一きれいな現場をつくります』と書いてあります。書いてある以上現場を綺麗にしないくはなりません。例えば現場の仮設トイレというのは、最初は綺麗な状態で現場に設置されます。しかし、現場のトイレは間違いなく汚れます。仮設トイレは通常リースなので、使うのにも誰にも責任がありません。皆が泥足で入ってきて、使えばなしなのが当たり前ののでどうしても汚くなるのです。

そこで「仮設トイレ使用の責任は現場の監督者であるあなたにあります。このトイレを綺麗にするのはあなたの仕事です。下請けや職人にはやらせず、まず自分で1回でいいから掃除をしてくれ。」と言っています。そうすれば、ここが大事なところですが、「せっかく掃除したのだから汚さないでくれ!」という掃除した人の気持ちがわかるようになってくるのです。

現場をきれいにすると、建物も綺麗、安全、お客様からも褒められると良いことばかりです。きれいにするには技術も何も要りません。社員には綺麗にしておけば必ず褒められるからと言ってきます。褒められると社員はとても嬉しい、成功体験が出来るのです。

●7アクト斉唱

また、ネームプレートの裏側に7アクトが書いてあります。社員がこれを取り外して読むようにしています。7アクトは大変良い言葉だと思います。これをやっているの間違いやありません。しかも、この7アクトは社長自身の言葉ではありません。倫理の言葉であるというのがポイントです。私は、社長の言葉に対して、社員は抵抗があるのではないかと思っています。「俺の言うことをお前ら聞け!」ではなく、「これは倫理の言葉なのだ。」と、「倫理が教えてくれることを皆で実践しえいこうではないか。」と。こちらの方が良いのではないかと考えています。

●みんなで学んだコミュニケーション力

社長が倫理で学んだことを、会社で社員に伝えたいという思いから、以前、MSで講師をしていただいたNHK山形放送局の樋口局長を社にお呼びして講演していただきました。よくコミュニケーションが大事と言いますが、私はこのことを社員が理解するには訓練が必要であると思っていました。そこで『あなたの言っていることは伝わらない。だから伝え方を勉強しなくてはならないのだ』という内容の講演を樋口局長にお願いしたのでした。

「私、お客様にこういう風に言いました」と社員が私に言うのです。しかし、言ったか言わないかが問題ではありません。お客様に伝わったのか、伝わっていないかが問題なのです。伝え方

が下手だから伝わっていないのです。伝える側の責任からみれば、言ったか言わないかはどうでも良いのです。何百回言っても伝わらないものは伝わりません。伝わらなかつたら現物を持って行くとか、伝え方の工夫が色々あるのです。それが『インフォームド・コンセント』という言葉につながってきます。

●インフォームド・コンセント

患者さんが納得してからお医者さんが治療することを意味する『インフォームド・コンセント』が会社の共通用語になっています。本来これは医療用語ですが、建築でも絶対必要な言葉です。

建築は商品があってこれを売りますという商売ではありません。当社では出来てみないとわからないものを売っています。ですから、社員には「どんなものが出来上がるのか、お客さまから「うるさい!」と言われるくらいまで説明しなさい、もしお客さまが現場に来たらずっと付いて回って説明し続けなさい。」と言います。ほとんどのお客様は設計図を見ても何もわかりません。出来上がった後でお客様から「なんでこんな風にしたの?私には聞いていません。」と言われることが無くなるのは重要なことです。

●最高のものをつくらうじゃないか

私にとって一番良い建物とは何か。お客様がずっと使い続けてくださり、10年後にうちの建物は素晴らしい建物だと喜んでくださるのが一番良い建物だと思っています。10年後にありがとうございましたと言ってくれる建物が作れたらそれは素晴らしいことです。引き渡しの時に涙流して「うわあ!ありがとうございます!」と感動してるといのは私にとってとんでもない話です。その前に全部説明し、お客様との意思疎通がよくできていて、その結果、お客様から「私の言う通りのものができました。どうもありがとうございます。」と言っていただいて静かに引き渡すの当社やり方です。

建物を作るのは人です。建物を作るのにどういう人を現場に寄せるか。その人がどういう心構えで現場に向かうかが建物の良し悪しを決めるのだと社員に言い続けています。それがこの「最高のものをつくらう。」という言葉になります。ものづくりをする人間にとってずっと持ち続けなくてはいけない心構えだと社員に言うのです。これは妥協しない心。これじゃ駄目だという心です。

これはサクラダファミリアを設計した建築家アントニオ・ガウディの言葉です。私の言葉ではありません。私は学生時代に建築家の研究でアントニオ・ガウディを色々調べて設計図をトレースしたりしていました。スペインに行ったときにオリジナルの設計図を見せていただき感動しました。「最高のものを作るうじゃないか。」という言葉はガウディが弟子に遺した最後の言葉でした。ものづくりをする集団として、こういう気持ちを皆で持っているのよと言っています。「社長の言葉を聞けよ!」ではないところが大事です。ガウディが言った言葉だから説得力がある。社長の言葉はパクリの羅列で大いに結構。その方が社員によく伝わると思っています。

●マイブーム

マイブームは写真です。最後に私の作品を1点ご紹介いたします。この1年半くらい常時デジタル一眼レフカメラとレンズ数本を車に積んで、個人的に建築物や風景撮影を楽しんでいます。写真は美的感性の訓練になりますので仕事にもつながります。建物の良さを知っている人が建物の一番良い瞬間を撮影出来るのです。結構凝り始めて、画像のあおり補正、電線消し、明るさの調整、曇り空を青空に差し替えも自分でやれるようになりました。写真満載のブログも是非ご覧ください。



Ms 5月の モーニング セミナー

●第260回 = 平成21年5月2日(土)
『方言の経緯と、現在の天童方言について』
講師：東海大学山形高等学校
今川亮平 様

【内容抜粋】●柳田國男氏の蝸牛考(方言周囲論)は興味深いです。蝸牛とはカタツムリのことです。●東北と九州ではツブリ、関東と四国ではカタツムリ、中部と四国ではマイマイ、近畿ではデデムシといいます。●都である京都を始点として同心円を描くように、方言が蝸牛のごとく全国にゆっくりと浸透していき、結果として東北と九州がツブリという同じ古い方言を使っていることが証明されました。次に新しい方言がカタツムリであり、さらに新しいのがマイマイ、最新がデデムシなのです。

【出席】28社36名／【輪読】2 苦難福門／
【今週の倫理】すなおな心によって自分自身を伸ばす

●第261回 = 平成21年5月9日(土)
『元気で行こう登り坂』
講師：(社)倫理研究所
法人局普及事業部
部長
井上茂勝 様

【内容抜粋】●景気といいますのは波があります。ですがどんな状況にありましても皆様方の置かれているお立場、倫理では絶えず登り坂です。そういう心をお忘れにならないで絶えず攻めの姿勢を取っていきましょう。下り坂という思いでは消極的発想しか出てきません。攻めの姿勢があれば必要なことへの積極的な発想が必ず出てきます。●会社という命が生まれた。それが何百年も続いているところもあれば、10何年続いているとか色々あるかもしれませんが、存在するものは必ず使命を帯びています。皆さんはその使命をどう貫いておられますか。「使命」とはその「命」をどう「使」って

いるかということなのです。この命の使い方がちょっとおかしくなったり、弱くなったりしますと存在価値が無くなってしまいかねません。人間も会社も使命と価値を持ってこの世の中に存在いたしております。価値が無くなったら存在はもう終わりなのです。●人間は自分に存在価値がある、役に立っていると思ったときに張り合いが出ます。使命にどれだけ役に立っているかという役立て高を乗じますと、それによって会社の存在価値は高まり足腰が強くなります。●中小零細企業の社長は痩せても枯れても元気が無かったら駄目です。背筋を伸ばして元気を出してください。それから気力です。気力は総合力、知力、人間力です。これは出合いがなくなります。一番大事なものは人様との出合いです。人が人を創り、人が環境を創っていきます。●モーニングセミナーには異業種との交流があります。全くの異業種だからというところに意外に商売のヒントがあります。金儲けの前に、是非倫理法人会で人儲けをいたしましょう。

【出席】34社38名／【輪読】3 運命自招／
【今週の倫理】「愛する妻へ」感謝を形にして贈る

●第262回 = 平成21年5月16日(土)
『肚をくくる』
講師：(社)倫理研究所
法人局普及事業部
北海道・東北方面副面長
川又久萬 様

【内容抜粋】●肚をくくるとは倫理経営に徹することです。社会に、お客様に何が出来るか、ということに徹することです。●企業は社長自身の器にそっくりです。●真理は常に新しく古いものです。●こちらが変わった分、相手も変わります。●「心配は毒ガス」=もの事は、心配したとおりに進んでいきます。ですから、心配は不要でありますし、むしろ明るく考えることが大切です！

【出席】31社48名／【輪読】4 万象我師／
【今週の倫理】五月病の克服には「今・ここ」の精神で

●第263回 = 平成21年5月23日(土)
『晩学の苦と楽』
講師：農学博士 佐藤章夫 様

【内容抜粋】●私は昔から農業水利への関心がありました。米の栽培に絶対必要な水は水利組合に帰属しますが、これは歴史的に形成された権利です。ですからもともとトラブがありますと、年寄りに聞けとなります。●江戸後期の山形盆地の領地はかなり複雑でした。その中を上流から馬見ヶ崎川が流れているわけですが、領地に関係なく自主的に水を分け合っていました。藩と村の間に何か藩を超えたものがあったように思うのです。村々が藩にかかわりなく協定して水を分け合ってきたことに不思議さを感じないではいられません。

【出席】31社48名／【輪読】5 夫婦対鏡／
【今週の倫理】決然と腹をくくり徹底した手を打つ

●第264回 = 平成21年5月30日(土)
『仕事と子育てがくれたもの』
講師：元さくらんぼテレビアナウンサー
遠藤敦子 様

【内容抜粋】●アナウンサーは初対面業です。365日違う方とお会いする仕事です。多くの方の喜怒哀楽に触れる仕事でもあります。そうした出会いの中で、自分人生、与えられた生をきっちりとうする大切さを知りました。●今、3歳と1歳になる2児の母です。思い通りにならない子育てになんと泣いてしまうこともありました。そうした最中に親業を知り、子供との会話が変わりました。子供がいやだということを否定しないで受け止める。いやなんだとそれを投げ返す。いやなことをしないこうなるけどどうすると子供に判断させる会話です。●子供の問題を親が取ってしまったら親が悩むことはないですとも言われました。子供は、生まれたら私のものではないのです。自分の足で自分の人生を生きていくことを尊重しなくてはならないのです。

【出席】29社39名／【輪読】6 子女名優／
【今週の倫理】美しく勝つために人的な質の向上を



(歳王相談役 鈴木隆二)

昨年一年間の山形県の交通事故負傷者数は九九一五名でした。人口一九九万人の中の一万人は驚くべき数字です。
交通事故はドライバーの悪い習慣が引き起こします。例えば、前の仕事の終了がだからだと遅れるから出発時刻が遅れ、次の会合に遅刻しないために車のスピードを上げるのです。悪い習慣を良い習慣に置き換えなければなりません。
また、運転者の心の状態が車の運転という行動に現れます。イライラや不安、不満の心を明朗、愛和、喜働の心に置き換えれば交通事故は減少するでしょう。
山形県の交通安全県民運動スロガンは『山形路 いつも心に思いやり』です。思いやり運転をみんなが実践することで、思いやりにあふれた「相互信頼社会」を実現したい、山形県から日本創生を実現したいと願っています。思いやり運転の道は日本創生という最終目的地につながっています。

思いやり運転の道

相談役のまななお話
第9回